

東北芸術工科大学伝統館

薪能

能 弱法師 観世鍔之丞

よろぼし

盲目の乞食の青年俊徳丸。
その心に懐かしい難波の浦の夕景が鮮やかに浮かび上がる…。
盲目の青年の清澄な心の内面を美しく描いた能。



狂言 千鳥

ちどり

山本東次郎

代金を支払わず酒を手に入れるため、
太郎冠者は祭りの様子を話して
酒屋の隙を窺い…。
冠者の奮闘ふりを楽しく
賑やかに描いた狂言。



2026年6月15日(月) 17時30分開演 (受付開始 16時30分)

東北芸術工科大学水上能楽堂「伝統館」

入場協力金: 一般の方 3,000円 / 本学生の保護者 2,000円 / 他学生 1,500円

※小中高生・本学生無料

【主催】東北芸術工科大学 【後援】山形県 / 山形市

申込先

お申込み者1名につき往復はがき1枚に、往信面に「ご氏名、かな氏名、ご住所、電話番号、薪能鑑賞希望」とご明記の上、返信面の宛先にご住所・ご氏名をお書きいただき、下記宛先にお送りください。折り返し、入場整理券として返送させていただきます。なお、本学生の保護者の方(1家族2名まで)は、上記に加えて、往信面に本学生の氏名と学籍番号をお書きください。

東北芸術工科大学 地域連携推進課 〒990-9530 山形市上桜田三丁目4番5号

Tel: 023-627-2217 Fax: 023-627-2081 E-mail: chiiki@aga.tuad.ac.jp URL: https://www.tuad.ac.jp

東北芸術工科大学伝統館新能

2026年6月15日(月)午後5時30分開演

於 東北芸術工科大学水上能楽堂伝統館

学長挨拶 中山グイスケ

解説 鶉澤 光

狂言 千鳥

シテ 太郎冠者 山本東次郎

アド 主 山本 則孝
アド 酒屋 山本凜太郎

後見 若松 隆

— 火入れ・休憩15分 —

シテ 俊徳丸 観世鏡之丞
能 弱法師 ワキ 高安通俊 宝生 常三

大鼓 亀井 広忠
小鼓 田邊 恭資 笛 栗林 祐輔

アイ 通俊ノ下人 山本泰太郎

後見 谷本 健吾
鶉澤 久

地謡 小早川康充 北浪 貴裕
小早川泰輝 西村 高夫
安藤 貴康 観世 淳夫
長山 桂三 馬野 正基

【演目紹介】

狂言 千鳥(ちどり)

主人は太郎冠者を呼び出し、今晚、急な来客があるので、いつもの酒屋へ行って振る舞いの酒を買って来いと命じる。冠者は支払が滞っているからと使いを渋るが、主人は何とか言いこらめ、使いに行かせる。さて、酒屋に着いた冠者は案の定ツケの催促をされるが、今回の分の代金は持ってきたと偽って酒樽に酒を詰めさせ、そのまま何食わぬ顔で酒を持って行こうとする。慌てて冠者を引き留める酒屋。そうこうするうちに冠者が尾張の津島祭に行つたと知り、それが気になった話し好きの酒屋は祭りの様子を尋ねる。

冠者は伊勢の浜辺で子供が千鳥を伏せる様子や山鉦が引かれる様子を再現して見せ、隙を見て酒樽を持っていこうとするが…。

能 弱法師(よろぼし)

河内国、高安の里の住人、高安通俊は人の讒言(他人を陥れるための告げ口)を信じ、我が子俊徳丸を追放してしまう。それを悔やんだ通俊が罪滅ぼしのため天王寺で人々に施しを行う施行を行っていると、弱法師とあだ名される盲目の乞食となった俊徳丸が現れる。施しを受けるため俊徳丸が通俊の前に出ると、ふと梅の香が漂う。散り降る梅の花も仏の施しと俊徳丸は言い、衣の袖で花を受けると仏の慈悲を讃える。

やがて日想観(夕陽を見て仏や極楽浄土を心に思い描く修行法)の時刻が訪れる。俊徳丸の心眼にはかつて見慣れた難波の浦の美しい夕景がありありと描きだされる。折しものどかな早春の天王寺には多くの貴賤の人々が集まり、賑わいを見せている。弱法師は心高ぶり、思わず群衆の中を歩み出すが、盲目ゆえに往來の人に突き当たり転び伏す…。

我に返った弱法師は改めて自らが盲目の身であることを思い知り嘆くが、やがて父子は互いに名乗り合い、ともに高安の里へと帰っていくのだった。

袖に散りかかる梅花に心を寄せ、その香を愛でる盲目の青年俊徳丸。その澄んだ詩情と哀しみに主題を純化して描いた能。

【演者紹介】

山本東次郎

大蔵流狂言方。一九三七年、故三世山本東次郎の長男として生まれる。四二年、狂言「痿痺」のシテで初舞台。五二年「三番三」、五八年「釣狐」、七一年「花子」を披く。六四年度芸術選奨大臣賞受賞。九二年度芸術選奨文部大臣賞受賞。九四年度観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。九八年、紫綬褒章受賞。〇一年、エクスンモービル音楽賞(邦楽部門)受賞。〇七年、日本芸術院賞受賞。一二年、旭日中綬章受章、文化功労者顕彰。重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)。一般財団法人杉並能楽堂理事長。

観世鏡之丞

観世流シテ方。一九五六年、故八世観世鏡之丞静雪(人間国宝)の長男として生まれる。伯父観世寿夫、および父に師事する。六〇年、四歳で初舞台。〇二年、九世鏡之丞を襲名。力強さと繊細さを兼ね備えた謡と演技には定評がある。新作能にも意欲的に取り組むほか、映画出演や現代演劇、現代音楽とのコラボレーションなど、古典やジャンルを超えた世界でも幅広く活躍。〇八年度日本芸術院賞受賞。二年紫綬褒章受賞。重要無形文化財総合指定保持者、公益社団法人鏡仙会理事長。公益社団法人能楽協会理事長。

【開催にあたり】

七〇〇年の歴史を持つ能は、「ユネスコ世界無形文化遺産」に指定されるなど日本だけでなく世界的な舞台芸術のひとつとされています。

本学に水上能楽堂「伝統館」が出来ましたことを機に、より多くの県民の皆さまに幽玄なる能楽の世界に親しんでいただき、東アジアに生きる日本人としての社会的・文化的アイデンティティを確認する機会としていただければ幸いです。

東北芸術工科大学 中山グイスケ